

子どもと教職員が語る未来の横浜の教育

～「令和6年度 横浜市教育課程研究委員会 研究協議会」の開催～

横浜市教育委員会では、毎年、市立学校の教育課程の編成・実施・評価・改善を促進し、学習指導の充実を図るため、「教育課程研究委員会 総則部会」及び「専門部会」を組織して研究を進め、8月に研究協議会を開催しています。

令和6年度も、8月20日（火）から23日（金）の4日間で開催し、約1万人の教職員が参加しました。

8月20日（火）に開催された「総則部会 研究協議会」では、「自立した学習者」をテーマに、生涯にわたって能動的に学び続けることができる子どもの育成について、教職員や有識者による議論が行われました。協議会の中では、子どもの意見や考えを学校教育の根幹である教育課程に十分反映していくことを目指し、今年度初めての試みとして、子ども自身が学びをデザインする視点での意見を収めたインタビュー動画が紹介されました。



1 令和6年度 教育課程研究委員会 研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びの実現 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～」

2 総則部会研究協議会 開催概要

- (1) 日時 令和6年8月20日（火）10時00分～16時45分
- (2) 会場 関内ホール ※当日は、来場のほか、オンライン（Zoom）による参加もありました。
- (3) 参加者 横浜市立学校教職員ほか 来場：613名 オンライン参加：557名

（参考）その他の協議会日程

- ・一般学級における「誰一人取り残さない」教育の実現部会【令和6年8月21日（水）】
- ・各教科専門部会【令和6年8月22日（木）～令和6年8月23日（金）】

3 横浜市教育課程研究協議会の特徴

○ 全国最大規模の参加者

毎年4日間の日程で約2万人の教職員のうち、その半数の約1万人が協議会に参加しています。参加者は各校で報告を行い、すべての教職員が情報を共有します。

○ 多様な参加形態による開催

会場での対面参加、リアルタイムでのオンライン配信に加え、当日の様子をアーカイブ化したものを配信し、全ての教職員がいつでも閲覧できるようにしています。

○ 教職員、事務局、外部有識者（大学、文部科学省）と協働的に実施

文部科学省が「小学校及び中学校各教科等担当指導主事連絡協議会」（6月）で示す方針だけではなく、横浜市では教職員と教育委員会事務局が協働しながら、実践に基づいた提案を行い、外部有識者のコメントも教育活動に反映させています。

○ 子どものリアルな声を聞きながらの協議（今年度初）

今年度初めて、小中学生にインタビューを行い、子どもが自らの学びをデザインすることを視点に、横浜市の今後の教育について議論しました。今後は子どもと教職員が対話する協議会にすることを全国に先がけて取り組んでいきます。

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



4 総則部会研究協議会（8月20日）の協議内容

事務局提案では、子どもが自分の学びについて判断し、選択できる教育（新たな学びのデザイン）の実現と、横浜スタジアムの活用やデータサイエンス・ラボの開催など、横浜ならではのデータ収集・分析サイクルの構築について提案しました。事務局提案を受けて3つの座談会で、教師の経験と勘にデータをかけ合わせた教育DXの推進や「自立した学習者」をどのように育成していくかについて議論しました。

(1) 式次第

ア【事務局提案】「主体的・対話的で深い学びの実現のための新たな学びのデザイン」

教育委員会事務局指導主事 ほか

イ【座談会】「主体的・対話的で深い学びの実現のためのデジタル活用」

横浜国立大学 准教授 鈴木 雅之 氏

名古屋大学 准教授 光永 悠彦 氏

学校教育職員、教育委員会事務局指導主事

ウ【座談会】「横浜では、『自立した学習者』をどのように育成していくか」

青木小学校 校長 後明 好美

市ケ尾中学校 校長 竹下 恭子

教育課程推進室 室長 丹羽 正昇

エ【座談会】『自立した学習者』の育成から見えるこれからの横浜の教育の在り方」

千葉大学 副学長・教育学部 教授 貞広 斎子 氏

桐蔭学園 理事長・桐蔭横浜大学 教授 溝上 慎一 氏

文部科学省大臣官房政策課 課長補佐 佐藤 悠樹 氏

(2) 外部有識者のコメント

○千葉大学 副学長・教育学部 教授 貞広氏から

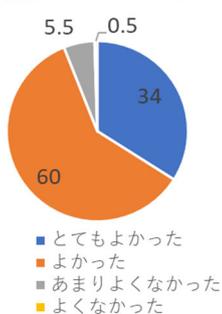
教師が学びの手綱を握って、どういう方向性で子どもが学ぶかがわかった上での「自立した学習者」の育成である。すべての子どもの学びを保障するには、授業改善の際にデータと向き合う必要がある。授業改善と組織づくりの両方の視点から学校運営を進め、公教育の使命を果たしてほしいと思う。

○桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授 溝上氏から

「自立した学習者」の育成については、文部科学省が進める学習指導要領改訂、GIGA スクール構想第2ステージともすり合わせて考えていき、「子どもに学びを委ねる」ことを学習全体の1～2割を補完するという形で着実に進められるならば、横浜市の取組として持続可能な形で取り組んでいけると思う。

(3) 参加者の声

総則部会の提案はいかがでしたか (%)



- 一人ひとりに寄り添ったオーダーメイドの学びの実現は、まさに、個々に多様化する考えや価値観をプラスと捉え、主体的な学びにつながるものと実感した。
- 横浜教育DXについて、データの集め方、使い方、分析の仕方は、教師自身がデータを活用していくために身に付けなければならない力だと思った。
- 「自立した学習者をどのように育成していくか」を大きな教育課題として、個に適した学習内容、学習の場を提供していくことが、主体的・対話的で深い学びにつながるということがわかった。

お問合せ先

教育委員会事務局教育課程推進室長 丹羽 正昇 Tel 045-671-3723



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

